



2月全員協議会(2/7)報告

市議会から行政へ提言実施状況

議会では思いが伝わるように一字一句にこだわりながら、話し合いを重ねて市に提言書を提出。

しかし市当局側は施策の見直しをするというより、聞き置いたという程度なのかなあと感じます。学校再編については現状を承認したような回答で残念でした。

文化財保存活用地域計画 最終報告

議員の要望として戦争遺跡や、葛布などが加えられました。

第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画

高齢者福祉計画

介護予防に力を入れることで高齢化が進んでも認定率が上がらないようにと、誰もが健康で幸せに暮らせる「健康長寿のまち掛川」がスローガン。予防に力を入れるのは当然ですが、介護保険を利用することにプレッシャーをかけることのないように望みます。

保険料は高所得の方の段階を細かくして限度額を上げることによって今回復元した。しかし5600円/月はやっぱり高い。在宅へといながら、ただでさえ低いヘルパーへの報酬がまたしても切り下げ予定です。なり手のいない介護職、ヘルパーの高齢化は加速します。

後期高齢者医療保険料等の改定

1人当たり9456円もの値上げです。出産育児支援金の財源を高齢者医療制度から持ってくるという理由付けが容認できません。

全くちがう財源から取り立てていいはずはないでしょう。現役世代の3倍とも言われる医療費を負担せざるを得ない高齢者いじめの国の政策に未来なんてありません。いずれみんな老人なのですから。

原田小と原谷小の統合

原野谷地区は、地域の学校を残すために新しい小中一貫校建設を選択しました。しかし建設前に原田小を廃校にすること



を望んだわけではないのでは？ 新校の建設まで、加配措置などを行なって現状を維持する方が子どもの負担は少ないはず。

原谷小の改修はかなり余裕のないもので、費用がかかる上、学童保育は原谷ではできず原田に戻るとか、付け焼き刃的です。子どもが真ん中というより、学校運営や教師の雇用といった大人の都合が優先されていると感じます。

複式を恐れる保護者脅しではなく、複式学級回避のための努力こそ最優先し、子どもへの負担を避けるべきだと私は思います。

中東遠総合医療センター企業団議会(2/9)報告

5年後をめどに新棟建設と施設改修

物価高騰などの影響で当初の見込みが10億円ほど増えて総事業予定費は83億円に

救急や放射線治療、人間ドック、健診センターなどが拡充強化されます。病院がよくなることは大歓迎ですが、一方で建設費の高騰が天井知らずになっている状況下での設備投資に私は不安があります。専門家ではないので積算される数字にあれこれいうことはできません。しかし、コロナの補助金がなくなら病院経営は大変になりかねません。健康保険料や窓口負担が増えたら、年金や賃金が物価上昇に追いつかない中、お金がないからと病院診療をためらい、重症の患者が増えないかも心配です。



逆川土手のさくらにメジロが集合

独立した企業団とはいえ、運営にも建設にも自治体からの繰り出しがされる公立病院です。来年度予算でも掛川袋井両市から救急や保健衛生などの医療、建設改良や経営基盤負担などの繰入金が一億円余。(うち10億円余を掛川市が負担) 今後経営の悪化を招かないと言いつつ確証が私にはもてません。病院経営の中心が男性ばかりでケア労働という全体として女性の比率が高い職場の声を拾えるのかという指摘、非正規を含む待遇の改善に取り組む必要はないかという意見も述べさせてもらいました。

豊田直巳写真展

あなたに見てほしい
福島の13年を



- 写真展 2/27(火)～3/3(日)
- スライドトーク 3/2(土) 13:30～
掛川市中央図書館にて

福島にコツコツ通い、話を聞き写真を撮り、その生の声と映像をもって全国を回っている川根本町出身の豊田直巳さん。岩波ブックレットや写真絵本など著作もたくさんあります。

福島原発事故から丸13年という節目の時、私たちは歴史から学ばなくてはなりません。福島事故が奪ったのは何だったのか。私たちが守るべきものは何なのか。そのためになにが必要なのか。豊田さんといっしょに考えてみませんか。

写真展会場では生の声をインタビューしたDVDも終日流します。